

## (4) 地域に根ざした河川整備を行う

### ① 歴史・文化・生活と密着した河川空間の創造を進めること

土岐川庄内川の沿川には、古くから川によって育まれた多くの歴史や文化などの資源があります。これらを活用し、上流、中流、下流で変化にとんだ景観や環境を生かし、上下流や対岸との交流を促進しながら、流域住民の方々の生活や文化と密着した河川空間を創造することが大切です。



●きねこさ祭り(H16年撮影)



●昭和初期 下之一色風景  
「庄内川と私」より抜粋(H9年3月庄内川工事事務所発行)



●現在 下之一色風景(H15年撮影)

### ③ 「ホームレス問題」を社会的な課題として取り組むこと

川の中は、洪水時には河川敷にも水が流れるなど大変危険な状況になります。

それに関わらず、土岐川庄内川の河川敷では、職や住居を失うなどの事情により、ホームレスの人々が住むことを余儀なくされている社会状況があります。

これを社会的な課題として市民、企業、行政が理解し、ホームレスの人々の現状や意向を把握しながら人権が保障されるよう関係機関が連携して解決に向けて取り組んでいくことが重要です。

#### ホームレスの人数

庄内川全体	： 約90人
下流部(約 6~17km)	： 約70人
中流部(約 19~26km)	： 約10人
矢田川	： 約10人

(H15年8月現在)



●平常時の河川敷の状況



●洪水時の河川敷の状況

### ② 家族で親しめる川づくりを進めること

川に親しみ、愛着を感じられる様になれば、川の環境に対する関心が高まり、自分達の手で川を守ろうという意識も生まれてきます。そのためには、散策、自然観察、スポーツなどの様々な目的で、子どもから老人まで多くの市民が友達や家族と一緒に気軽に川を訪れることができ、川が身近な場となる様な機会をつくる必要があります。



●庄内緑地



●松陰公園(クロマツ並木)